



会員寄稿 各学年主任より

「藤樹先生のように！」

第1学年主任 大本 将人

近江聖人のことは、聞いたことはありましたが、詳しいことはよく知りませんでした。図書館で何気なく手に取った子供向け「中江藤樹」の伝記を読み、その時から藤樹は尊敬する師となりました。数々の逸話の中で、私が一番好きなのは、正直な馬方、又左衛門の話です。ある武士が主君に届けるための二百両の大金を馬の鞍に結びつけたまま忘れてしまった。武士と別れた後、この忘れ物に気付いた又左衛門は、遠い道を引き返して、武士に届けます。おそらく黙っていれば一生楽して暮らせる程の大金を届けて、お礼さえ受け取らなかったといひます。藤樹先生の教で、人として生まれたからには良いことをしないとイケない。困っている人は助けなければならないというのです。あまりにも優しく、あまりにも尊い心に、私は流れ出る涙を抑えることができませんでした。他に師を探す必要はない。大洲高生は、すでにこんなすばらしい師をいただいているのです。藤樹先生のように生きれば、間違いなくすばらしい人間になれます！こうして、1学年団の目標が決まりました。

「皆勤賞廃止論」

第2学年主任 伊藤 圭一

近年、皆勤賞の廃止を求める声が高まっているのをご存知でしょうか。廃止を主張する人たちの主な理由は、以下のようなものです。

- ・事故などで欠席した生徒を貶めることになり、不公平感や劣等感を生む。
- ・風邪やインフルエンザなどの感染症を広めるリスクを高める。
- ・多様な個性や価値観を認めない教育方針を示すものである。

一方で、皆勤賞の存続を主張する人たちの主な理由は、以下のようなものです。

- ・生徒に対する励ましや評価であり、自己肯定感や自信を高める効果がある。
- ・責任感や規律性を身に付けさせる教育的意義がある。
- ・伝統や文化として根付いており、廃止する必要はない。

私は、目指すものとしてあっていいのかなと思っています。ただ、不慮の事故で入院したり持病を抱えて定期健診が必要な人など、皆勤ではないけれど頑張っている人がいることに思いを巡らす想像力は持ちたいですね。2年生の今年度の目標は「心・体・頭、たくましく」です。日々の学校生活を通じてストレス耐性を高め、たくましく学業や部活動に打ち込む姿を見せてください。そして、高い皆勤率も達成できたら嬉しいです。

「飛翔-The sky is the limit-」

第3学年主任 飛田 亜希

1年「挑戦」、2年「突破」を学年テーマに、スモールステップで目標を達成しつつ、大きな目標達成に向けて進んできた生徒たちが、いよいよ3年生となりました。2年間で大きく助走をつけた生徒たちが、この1年を経て、笑顔で大きく社会へと羽ばたいていくことを願い、本年度の学年のテーマは、「飛翔-The sky is the limit-」に決定しました。

受験生である3年生の時間は、多くの生徒たちにとって、今までの人生で最大の頑張りどころであり、悩みの尽きない時間になると思います。一番のサポーターである保護者の方は、子どもとの関わり方に気を遣ってしまうこともあるかもしれませんが、一概には言えませんが、親が無理をせず、いつも通りの生活を心掛けることは大切だと言われています。また、進路決定は将来や人生について親子で話し合える絶好の機会。子どもの考えていることが言葉に出てくるのを待って、コミュニケーションを大事にさせていただけたらと思います。我々も進路決定に対する不安をしっかりと受け止め、正確で適切な情報伝達を心掛けていきたいと思ひます。今年も1年、どうぞよろしくお願ひいたします。